



JABS 日本行動科学学会
Japanese Association of Behavioral Science

第 32 回
ウィンターカンファレンス
プログラム

会期: 2016年3月13日(日) - 15日(火)
会場: 妙高・山里の湯宿 香風館

日本行動科学学会（JABS）
第 32 回ウィンターカンファレンス開催にあたって

ウィンターカンファレンス（略称 WC）へようこそ！

久しぶりに昔のスタイルで開催いたします。インターネットが当たり前になった今だからこそ、膝を突き合わせて議論しましょう。むかしむかし、日本行動科学学会が異常行動研究会（PBD）と称していた頃から伝統的に冬山でウィンターカンファレンスを開催して参りました。欧米の学会で多く試みられているのと同様の形式で WC を開催いたします。よく学び、よく遊べをモットーに充実した学問的議論を深めてください。教室の中にいるのとは、また違ったリフレッシュする場所での学問的議論では、思いもかけない発想が生まれます。

日本行動科学学会は基礎から臨床までその研究分野は心理学全般に渡っています。学部生、大学院生、研究者、現場の方々の参加を得て、実り多きものとなることを期待します。

1 日目は、本学会の発展に多大な寄与をされ、前会長を務められた磯博行先生の追悼シンポジウムです。テーマは『行動科学研究者としてのこだわり』です。2 日目は若手による『海馬研究のフロンティアー機能的多面性の動作原理に迫るー』をテーマにしたシンポジウムです。内容の濃い議論が展開されて記憶に残るウィンターカンファレンスとなることを祈念いたします。

第 32 回ウィンターカンファレンス大会委員長
広島大学大学院総合科学研究科 坂田省吾

【大会参加者への案内】

1. 参加受付（総合受付）

日時：2016年3月13日（日） 15時30分から

2016年3月15日（火） 10時まで

場所：妙高・山里の湯宿 香風館

2. 大会参加費

カンファレンスのみ

会員（一般） 4,000円

会員（大学院生） 2,000円

非会員（一般） 5,000円

非会員（大学院生） 3,000円

学部生 1,000円

3. 宿泊費

7,800円（1泊2食付）

（シングルは+2160円）

*参加費はウィンターカンファレンスの受付で、現金にてお支払いください

*ネームカードとフォルダは受付にてお渡ししますので、会期中は必ずご着用ください。

ネームカードに不備のある方は大会事務局受付にて申しつけてください

*ネームカードをお持ちでない方、参加受付がお済みでない方の会場への立ち入りは固くお断り致します

4. 行動科学学会（JABS）入会手続き

行動科学学会（JABS）への入会を希望される方の入会手続きについては、<http://www.jabs.jp/application.html> をご覧ください。

（お問い合わせ先）〒607-8175 京都市山科区大宅山田 34

京都橘大学 優心館 E413（田中研究室）内

E-mail: jabs.office@gmail.com

FAX: 075-574-4292

【会場案内】



*発表会場・夕食，交流会会場は本館 2 階になります。

*学会受付はロビーにあります。

【大会プログラム】

3月13日（日）

15：30 受付開始

16：00 ～ 18：00 拡大運営委員会

18：00 ～ 19：30 夕食

19：30 ～ 20：00 総会

20：00 開会（大会長 坂田省吾）

20：10～22：00 磯博行先生追悼シンポジウム

『行動科学研究者としてのこだわり』

○企画

土江伸誉

○話題提供

中尾将大、山本直樹、加藤 司

○指定討論

杉岡幸三

22：00～ 行動科学学会交流会

3月14日（月）

20：00～22：00 若手シンポジウム

『海馬研究のフロンティア –機能的多面性の動作原理に迫る–』

○企画

崎本裕也、高瀬堅吉

○話題提供

高野裕治、崎本裕也、齋島旭

22：00～ 行動科学学会交流会

3月15日（火）

10：00 解散

抄 録

1 日目：追悼シンポジウム

2 日目：若手シンポジウム

磯博行先生追悼シンポジウム

『行動科学研究者としてのこだわり』

○企画

土江伸誉 (兵庫医療大学共通教育センター)

○話題提供

中尾将大 (立命館大学文学部)

山本直樹 (マツダ株式会社)

加藤 司 (東洋大学社会学部)

○指定討論

杉岡幸三 (姫路獨協大学医療保健学部)

企画趣旨

2015年2月17日に急逝された本学会前会長である磯博行先生の追悼シンポジウム『行動科学研究者としてのこだわり』を企画致しました。磯先生は、動物心理学を中心に精力的な研究活動を進められ、多くの業績を上げられました。新しい研究テーマや実験手法を闊達自在に採り入れられる方でしたが、行動科学の専門家としてのアイデンティティは揺らぐことはありませんでした。

現代の行動科学は、広範なテーマに様々な手法を駆使してアプローチする学際的な研究領域となっています。研究領域の広がりには研究者の多様化でもありますが、行動科学の基礎教育を受けた研究者は、テーマや活躍の場こそ違っても、それぞれに出自の特性を發揮し、こだわり(哲学)を持って日々の業務に従事されている例が多いように思います。

本シンポジウムでは、かつて磯先生に薫陶を受け、現在それぞれの専門領域でご活躍中の研究者3名にご登壇いただきます。行動科学研究者が持っている、また、持つべきこだわり(哲学)とは何かについて考えるとともに、磯先生のご遺徳を偲びたいと思います。

話題提供

『先師(せんし)口伝(くでん)－磯流行動科学研究法と教育法の要－』

中尾将大 (立命館大学文学部)

演者と磯博行先生との出会いは今から約 16 年前に遡る。演者はまだ学部の 4 年生であった。以来、先生が亡くなられるまで公私にわたりご指導をいただいた。演者は、研究者、教育者として磯先生に育てていただいた。演者にとって磯先生は「直接の師」であり、「研究の父」と言える存在であった。本講演の目的は演者の耳の底に留まる“先師”の教えを正しく伝えること、未来に向けてそれらをどのように発展させるかを論じることである。

『ヒトを中心に考えた自動車開発』

山本直樹 (マツダ株式会社)

ドライバの認知・行動特性の理解は安全な自動車社会の実現に不可欠である。近年、自動車の高知能化が進み、安全運転支援システムや自動運転技術が実用化されていく中で、ドライバ特性研究は益々注目を浴びている。本発表では、自動車の研究開発における行動科学的な視点からのドライバ特性研究とマツダの「ヒトを中心としたクルマづくり」の取り組みについて紹介する。

『故磯先生の研究哲学と私の研究』

加藤 司 (東洋大学社会学部)

磯博行先生のご生前のご苦勞を偲び、謹んで敬弔の意を表します。本シンポジウムでは、磯先生と初めてお会いした際にお教えいただいた 2 つの研究哲学についてお話しいたします。ひとつは「研究の手続き」、もうひとつは「研究のためのツール」です。私の中で今も鮮やかに生き続けている磯先生から学んだ研究哲学について、皆さんに少しでも理解していただければ幸いです。

若手シンポジウム

『海馬研究のフロンティア－機能的多面性の動作原理に迫る－』

○企画

崎本裕也（山口大学）・高瀬堅吉（自治医科大学）

○話題提供

高野裕治（同志社大学研究開発推進機構赤ちゃん学研究センター）

崎本裕也（山口大学医学系研究科システム神経科学分野）

薮島旭^{1,2}・一谷幸男¹（¹筑波大学大学院人間総合科学研究科、
²群馬大学大学院医学系研究科）

企画趣旨

症例 H.M.の報告以降、記憶や学習における海馬の機能的意味が検討されてきた。脳の一領域の機能解明には古くから動物を用いた損傷実験が盛んに行われており、その研究成果は記憶・学習と海馬機能の関係を解明するうえで大きな成果をもたらしている。一方、損傷を行わずに海馬の神経活動を観察する方法として海馬脳波などがあり、記憶・学習中の神経活動の変化、また海馬脳波自体の発生機構などその原理解明も同様に進んでいる。本シンポジウムでは『海馬研究のフロンティア－機能的多面性の動作原理に迫る－』と題し、様々な視点から海馬の機能的意味やその動作原理を考察する。

話題提供

『海馬シータ波の出現機構』

高野裕治（同志社大学研究開発推進機構赤ちゃん学研究センター）

海馬シータ波とは、脳内の海馬から直接記録することができる4～10Hz程度の正弦波様の律動的で規則的な脳波のことであり、海馬シータ波の研究は学習・記憶の神経基盤として、これまで活発に行われてきた。海馬シータ波の出現機構については、橋吻側領域におけるネットワーク及び報酬系の起始核である腹側被蓋野のドパミン系が知られている。本講演では、海馬シータ波が複数の独立した駆動システムを有している意義について、展望することを試みたいと思う。

『Go/No-Go 刺激弁別課題中の海馬 θ 波活動』

崎本裕也（山口大学医学系研究科システム神経科学分野）

Go/No-Go 刺激弁別課題において海馬機能が重要な課題として負パターンニング課題、重要でない課題として単純弁別課題が提案されている。近年ラットを用いた研究において、負パターンニング課題時の No-Go 反応中に海馬 θ 波のパワーが減少すると報告された。本講演では、他の Go/No-Go 刺激弁別課題を用いた最新の研究報告をいくつか紹介し、どのような条件下での行動抑制が海馬 θ 波のパワーの減少を引き起こすのか考察する。

『ラットの長期記憶機能における後部帯状皮質および海馬の役割』

薮島旭^{1,2}・一谷幸男¹（¹筑波大学大学院人間総合科学研究科、²群馬大学大学院医学系研究科）

記憶機能において海馬は脳新皮質が協働して関わっていると考えられている。海馬の記憶機能への役割については膨大な研究がなされている一方で、脳新皮質は長期記憶プロセスに関与していると考えられているものの、脳新皮質のどの領域がどのような役割を果たしているかについてはよく分かっていない。本研究では、海馬やその周辺領域と密接な神経連絡を持つ後部帯状皮質に焦点を当て、同領域の長期記憶における役割や海馬との機能の違いについてラットを用いて検討した。

【メモ】

【メモ】

行動科学ブックレット（日本行動科学学会編集）

- 「1 覚える：覚えたことがなぜ思い出せなくなるのだろうか」 岡市広成 著
- 「2 飲む：あなたは何をどのように飲んでいますか？」 磯博行 著
- 「3 やせる：肥満とダイエットの心理」 今田純雄 著
- 「4 元気に老いる：実験心理学の立場から」 岡市洋子 著
- 「5 生まれる：発生生物学から見る胎児の世界」 杉岡幸三 著
- 「6 決める：意思決定の心理学」 中西大輔 著
- 「7 吸う：喫煙の行動科学」 島井哲志 著
- 「8 食べる：食べたくなる心のしくみ」 青山謙二郎 著
- 「9 休む：ストレスと対処法」 投石保宏 著
- 「10 話す：話すときに何が起きているのか？」 宍戸恵美子 著

二瓶社から好評発売中 お求めは直接二瓶社へ

案内はホームページにあります。（ <http://www.niheisha.co.jp/> ）

二瓶社

〒125-0054 東京都葛飾区高砂 5-38-8 岩井ビル 302 号

TEL 03-5648-5377 FAX 03-5648-5376

日本行動科学学会 (JABS)

第 32 回ウィンターカンファレンス

【大会事務局】

大会委員長 坂田 省吾 広島大学大学院総合科学研究科

事務局スタッフ

服部 稔	広島大学大学院医歯薬保健学研究院
崎本 裕也	山口大学医学系研究科システム神経科学分野
新倉 怜	広島大学大学院総合科学研究科
豊岡 景太	広島大学総合科学部
石原あかり	広島大学総合科学部
中村 勇太	広島大学総合科学部

【大会事務局】

〒739-8521

広島県東広島市鏡山 1-7-1

広島大学大学院総合科学研究科

TEL: 082-424-6581

FAX: 082-424-0759

E-mail: wc_32nd@jabs.jp

【宿泊】

妙高・山里の湯宿 香風館

〒949-2112

新潟県妙高市妙高温泉

TEL:0255-86-2046

FAX:0255-86-2703

